令和7年９月12日

6年生保護者の皆様

丹波篠山市立岡野小学校　校長 足立 貞治

6年生『全国学力・学習状況調査』の結果について

4月17日（木）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が返ってきました。全国学力・学習状況調査は、毎年、各教育委員会や各学校が児童生徒の学力や学習状況を把握し、学習指導や生活指導の改善等に役立てることを目的として実施されています。

本校でも本調査結果を分析し、まとめました。本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないことなどを踏まえつつ、保護者・地域の皆様の理解と協力のもとに適切に連携を図りながら一層の指導上の工夫改善に努めます。学校の教育活動に対して支援していただければありがたいと思います。また、それぞれの結果については、本日、封筒に入れて返却しています。お子様と一緒にご確認ください。

〈算数〉

○成果……資料から数量を式に表す力、はかりの目盛りを正確に読むなど実生活に即した測定する力において成果が見られる

全体的に良好で、学習指導要領の領域別にみると、本校の正答率は「A 数と計算 60.9%（全国62.3%）」「B 図形 59.4%（全国56.2%）」「C 測定 60.4%（全国54.8%）」「C 変化と関係 59.7%（全国57.5%）」「D データの活用 64.2%（全国62.6%）」と、ほぼ全国平均と同程度の結果でした。

その中でも特に、正答率87.5%（全国平均74.5%）の問題は、示された資料から、必要な情報を選び、数量の関係を式に表し、計算することができるかどうかをみる設問でした。この問題は、資料として「ピーマン2個で70g」「ブロッコリー4個で70g」等、複数の野菜の重さに関する資料が提示してあり、その資料を読み取り、「ピーマン1個とブロッコリー4個を食べたら、何gの野菜を食べたと考えられるか」を立式して答えを求める問題でした。正解は、「70÷2+70＝105 105g」ですが、こうした資料を正確に読み取り、問題を解く力に一定の成果が見られました。また、はかりが示された場面で、はかりの目盛りを正確に読む問題では、正答率70.8%（全国平均60.9%）と実生活に即した測定する力にも成果が見られました。

●課題……数直線上の分数を捉えることや、倍を使って百分率を捉え直し表現する問題において課題が見られる

数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる問題の正答率は12.5%（全国平均35%）でした。この問題は、数直線上に示された1より大きい数を、1より大きい分数として捉えて表すことができていないことがわかりました。

また、「10%増量」の意味を解釈できているかどうかみる問題では、正答率が45.8%（全国平均40.9%）という結果で、ここでも課題が見られました。この問題では、つめかえ用のハンドソープが「10%増量」と書かれており、増量後のハンドソープの量は、増量前のハンドソープの何倍かを問う問題です。正解である「1.1倍」を選択する問題でしたが、全国平均と同様に、「10%増量」を正しく求めることができていない児童が多数いることがわかりました。

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

今回の結果から、極端に苦手な領域があるわけではないですが、基準となる数を見出し、数量の関係を捉えていくことや、「分数・小数・割合」という概念理解を深められるように、数学的な用語や表現についての知識の習得と習得した知識を活用する活動との往来を通して、基礎的な知識と概念のさらなる理解を深めていくことが必要であると考えます。

基本的な数量の読み取りや計算をさらに充実できるように、授業改善に努めていきます。

〈国語〉

○成果……文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つける力、資料等を根拠に自分の考えをまとめて記述する力において一定の成果が見られる

全体的に良好で、ほとんどの問題で全国平均並みか、やや上回る結果となりました。知識及び技能を問われる領域の「言葉の特徴や使い方に関する事項」は正答率72.9%（全国平均76.9%）、「情報の扱いに関する事項」は正答率66.7%（全国平均63.1%）、「我が国の言語文化に関する事項」は正答率87.5%（全国平均81.2%）でした。思考力・判断力・表現力等を問われる領域の「読むこと」領域では、平均正答率が 68.8%（全国平均 57.5%）でした。

特に、目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけられるかどうかをみる問題では、正答率が全国平均を20%上回る結果となりました。これは、昨年度まで本校の国語科研究でとりくんできた「自分の考えをもち、表現する子を目指して ～目的や意図に応じて複数の資料（情報）を用いて表現する力の育成～ 」というテーマに関係する分野でもあります。研究を通して培ってきた子どもたちの成長が感じられます。また、記述力を問う問題において、無解答率が全国平均より低く、条件つき作文に抵抗感なく取り組めていることがわかります。低学年の頃から系統的に積み上げてきた力が一定の成果として表れています。

●課題…同音異義語など、基礎的知識を問う問題において課題が見られる

全国の正答率を大きく下回る問題が1つありました。

漢字の基礎的知識を問う問題で、「あつい日に、水でぬらして首にまくと、すずしく感じます。」の正答率が58.3%（全国の正答率72.1%）でした。答えは、「暑い」ですが、児童の半数が無解答も含めて「暑い」以外の誤答をしていることがわかりました。同音異義語の理解ができているかどうかを問う問題は、昨年度も同様に全国平均を下回っていることから、意味に応じて漢字の使い分けが難しいという状況が改善できていないことがわかります。

また、全国的に正答率が低かった問題（全国平均51.3%、本校50%）では、叙述を基に事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章全体の構成を捉えて要旨を把握する力にも若干の課題が見られました。

課題克服に向けて取り組んでいきたいこと

昨年度同様に漢字での課題が見られたので、朝スキルタイムで設定している漢字スキルや辞書引きスキルの時間などを使って、漢字の意味を考えながら読み書きする学習や、同音異義語のそれぞれの使い方を調べて理解できるように継続して進めていきます。また、意味に応じて漢字を使いわける意識を高めたり、語彙力を豊かにしたりするためにも、「普段から読んでいる本よりも少し内容の難しいレベルの本にチャレンジするように呼びかけること」や「家庭学習の取り組みをさらに充実できるように漢字学習の出し方を工夫すること」など、日常で目にしたり、使ったりする機会の少ない語彙にも子どもたちが触れ合えるような工夫を目指していきます。

【保護者の皆様へのお願い】

今回の調査の結果から、算数や国語のどの教科においても全国平均と同程度ということがわかりました。前述の課題克服に向けてのところでも記載しておりますが、子どもたちが同音異義語等の漢字の意味理解を含めた語彙力をさらに拡充していくためには、読書活動の充実もますます大切になってきます。また、中学校進学が間近に迫ってきている2・3学期だからこそ、さらに充実した学習習慣の確立ができますよう、家庭での声かけを引き続きよろしくお願いいたします。6年生では、主体的な自主学習への取り組みを夏季休業中から呼びかけてきました。今後も、よりよい学習習慣の確立に向けて指導・啓発をおこなっていきますので、ご家庭での様子でお気づきのことがありましたら、いつでも学校までご連絡いただきますようにお願いいたします。